

難治がん検体を用いた先行解析の 進捗状況報告

東京大学 医科学研究所
国立がん研究センター
柴田 龍弘

難治がん検体を用いた先行解析

Step 1: まず最初に着手するがん種（生物学的・ゲノム特性の異なる難治がん種2つ）として、**膵がん並びに白血病（経時的採取検体など）**について、研究グループを構成し、DNA/RNA抽出を行う。

Step2: 解析WGで推奨するプラットフォーム・解析条件に従い、WGS/RNAseqを行う。標準パイプラインによる1次解析を行った後、データは研究用データ共有システムに登録する。

難治がん検体を用いた先行解析の進捗

Step1

◆ 膵癌

国立がん研究センターバイオバンクから T/Nペアサンプルの払い出しを行い、DNA/RNA抽出を行った。現在全検体についてKRAS変異のVAFを測定し、腫瘍率を算定中

→ 腫瘍率を考慮しながらWGS/RNAseq解析を開始する。また他施設のバイオバンクとも連携し、症例数の追加を目指す

◆ 白血病

(骨髄異形成症候群や骨髄増殖性腫瘍、慢性骨髄性白血病も含む、時系列解析可能なサンプル)

京都大学 (小川先生) にて、サンプル数の確認を行った。今後DNA抽出、シークエンスを進める。